


「ジェンダー社会学の理論と方法」



社会学演習(2004)

上野千鶴子教授

1. ゼミの構成

- 講義、文献講読、リサーチ、定量・定性情報処理法(KJ法実習)、分析、口頭報告、ドラフト、コメント、改訂
- 合宿、夏・冬各1回2泊3日、自主研究報告
- 卒論発表 12月
- 卒論〆切 2004年1月11日

2. 評価（単位認定の必要な者）

- 指定文献講読の口頭発表
- 司会
- 研究計画提出
- 合宿参加：自主研究報告、夏/冬各1回
- 出席：レスポンスカード提出(出席点に替える/
3分の2以上出席)
- 討論への貢献度
- 期末レポートまたは卒業論文（自主研究報告）：
8000字-12000字/ワープロ入力

3. 指定文献および参考図書

- 指定図書を購入もしくはコピー.
- マスターコピーを上野研究室に準備/各自コピーすること.
- 貸し出し記録記入/1回1時間を限度.

4. 口頭発表の仕方

- 指定文献講読の場合：発表時間10分/原則として要約はしない/コメント中心.
- 自主研究報告の場合：発表時間20分を限度とする(学会方式).
- hand-outを用意(人数分コピー).
- 受講者は読んできたことを前提に問題点の指摘とコメント中心に報告と討論.
- 報告者は関連文献にもあたる.
- 受講者から予期される質問に答える準備をすること.

5. 論文の書き方

- 原則としてタイプ原稿に限る.
- 引用・注・文献挙示の方法は卒論に準ずる.
(社会学専修過程「卒業論文に関する技術的注意」)
- 400字詰め原稿用紙200枚を標準.

6. 情報検索の仕方

- 総合図書館/文学部図書館
- インターライブラリーローン
- 公共図書館/国会図書館
- 専門図書館: 女性情報センター/大宅文庫など
- データベースへのアクセス: 学術情報データベース/OPAC/NACISIS/WINET他
- 海外図書データベースへのアクセス

参考文献:

小林 康夫・船曳 建夫 (編)1994. 『知の技法』東京大学出版会

7. 英語文献の読み方

- rapid reading (中途まで読むより粗読でも最後まで読み通す.)
- 翻訳しない.
- できるだけ辞書を引かない(伏せ字読書法).
- 英語は英語のまま理解する.
- パラグラフ冒頭に鍵あり.
- 要約と問題点の指摘.